

第45回市政一新市民会議・会議録（議事要旨）

・開催日時 平成23年5月20日（金曜日）午後2時～3時5分

・場 所 名張市役所 庁議室

・出席者 会長 中川 幾郎（学識経験者）
委員 伊藤 英次（関係団体）
" 菅井 杏（関係団体）
" 寺田 智子（関係団体）
" 溝延 克彦（公募委員）
（50音順・敬称略）

（欠席者）委員 岩崎 恭彦（学識経験者）
" 梅本 俊子（公募委員）
" 富山 修（関係団体）
" 中山 登貴（関係団体）
" 室谷 芳彦（関係団体）
（50音順・敬称略）

事務局 企画財政部長 山本 順仁
行政改革推進室長 岩崎 壽久
行政改革推進室員 高橋 優子
今村 典義

・内 容

- 1 市政一新プログラム - 完結編 - 取組項目推進計画の平成23年度計画について（資料1）
- 2 市長への提言書（案）について（資料2、3）
- 3 その他

第45回市政一新市民会議・会議録(議事要旨)

1. 市政一新プログラム - 完結編 - 取組項目推進計画の平成23年度計画について

事務局より資料説明

この推進計画の取組項目は、市民会議でもご審議いただき、昨年6月に策定し、取組を進めているが、毎年度、その年度の取組内容を具体的に記載するとともに、進捗状況に応じ、時期等の見直しを行い作成することとしており、今回、本年度分について、それぞれの項目の担当室が見直し作成し、平成23年度版として取り纏めている。

計33項目の平成23年度計画のうち、本年度の主なものとして、10項目を説明。

項目番号1(1) 地域ビジョンの策定促進、1(1) 地域予算制度の再構築、2(1) 行政事務・共通業務の効率化、2(2) 行財政マネジメントシステムの構築、2(3) 指定管理者制度の活用、2(4) 小中学校規模・配置の適正化推進、3(1) 人事評価制度の有効活用、3(2) 総合窓口の拡充、3(2) 「新しい公」が生きる効率・効果的な組織体制の構築、4(2) 人件費の抑制

会長

各委員より、質問、意見等をお願いしたい。

委員

プログラムの内容についてはすごく充実して作られていると思う。私達がこれを作れと言われても、なかなか作ることができないので、私達がここから市民力として何ができるかを考えていく方がいいのではないかなと思う。プログラムの中身について、ここは変だなという部分はない。

委員

このように物事が進んでいく計画が立ってるんだなということで勉強になった。推進については、細かいところはよくわからないので、お任せしたい。

委員

地域づくりにおいて、自治会は役が1年交代であり、スムーズに次の役員にバトンタッチできるかという課題がある。ビジョンづくり委員会においても同様である。市においても組織が変わると引継ぎがうまくいかないということもあると思うが、そういったところの問題がある。

また、病院の経営状況に関して、以前に財政状況の基本データを見せていただいたことがあるが、その後の推移はどうなっているか。いい方向に向かっているのか。

行政改革推進室長

地域づくりに関しては、市においては、平成 24 年度からは、地域担当の職員の専任を増やすなど組織体制を見直し、より地域に向けた形で進めようとしている。役員が交代することに関しても、スムーズに引き継げるように研修をしていただくことなども併せて進めていけたらと考えている。

企画財政部長

病院の件に関しては、市では、現在市政一新プログラムの完結編と財政健全化計画を打ち立てて、取り組んでいる。この財政健全化計画というのが 22 年、23 年、24 年とこの 3 か年が最後の山を迎える。その山の要因は 3 つあり、その 1 つがこの中央西希中央の用地関係の問題である。土地区画整理事業の起債の償還が 3 か年に集中しており、それまで 1 億円程度だったのがその 3 か年が 5 , 6 億ずつ来る。2 つ目は、土地開発公社の保有土地の整理であり、これらが非常にお金がいるが、この 2 点については見通しが立っている。

最後の問題が市立病院であり、市立病院の経営にどれだけ市がフォローしなくてはならないかということで、今年の予算では病院の足りない財源については全て一般会計から繰り出しをしている。病院会計は、今まで言われてきた赤字は、減価償却に関わるもので別に問題のなかった赤字であるが、最近は本当に払いきれないという状態になっており、資金不足が出ている。しかし、その額は改善の方向にいつている。

救急について伊賀市との 3 輪番をやっているが非常に伊賀側が弱ってきている。上野市立病院の医師不足によって内科医の引き上げなどがかなり影響しており、名張に比重がかかってきている。この伊賀の医療を、名張市立病院がかなりカバーをしている。今 5 割だが、何とかドクターを増やして輪番を 6 割ぐらいに上げていきたいというような思いをトップは持っている。それには医師が増えないといけない。名張の場合には小児科医については 4 人から 5 人になってきており、外科医も上野に移る人もいるが、増やしていこうとしている。関西医科大学、それから奈良医大、三重大学、それと近畿大学との連携の可能性もあるので、そういったことでこれからいい方向にいくのではないかと考えている。ただ、資金不足については一般会計がフォローしないとけないので、名張市の財政経営にとって病院問題がかなり重要になってきている。

委員

内容はいいと思うが、ただこれを継続していくことを考えると、縮小方向だけで

はく、状況が変わったら拡充するというのも大事ではないかと思う。震災など、いろんなことで行政の状況が変わると思う。状況によって、ある部分ではもっと充実させていくなど、そういう形が必要だと思う。

最近の朝日新聞に議会が無力だ、という記事が出ていた。震災が起きて市議会議員の方が何もできないというか、その町の復興などは議会を通すとスピードがなくなるということで議会が全然開かれなとか、そういったことを興味深く感じた。状況に応じた柔軟な姿勢が大事と感じる。

会長

役員が一年交代で引継ぎが難しいということについては、地域づくり委員会サイドから、役員の任期について、2年、3年としてやってもらうにはどうすればいいか提案するとか、研修をすることも大事かもしれない。

地域づくり委員会が頑張らないといけないなかで、何もわからない市民です、という立場で、要求ばかりするようなことだと話にならない。要求型ではなく、バランスよく政策を選べるような市民層を増やしていかなければならないと思う。私個人としては、生涯学習や生涯スポーツなどの施設の登録団体になっている方は、市の仕組みや人権の研修を年に1,2回は、必ず受けないと登録資格を得られないというようなルールを作っているのではないかと考えており、この考えを広めているところである。自己実現型の趣味・教養型の団体についても同様に、きちっと研修を受ける義務があるということを徹底してはどうか。また、施設の登録団体は、消耗品費は払っても光熱水費は無料又は少額の負担で自由に使用できる施設もあるが、維持管理には莫大な経費がかかっている。コストを分担させるという考え方でもいいし、生涯学習の担当の方は何か考えるとよいのではないか。

事業に応じて縮小だけでなく拡大もという柔軟性が必要というご意見については、市政一新プログラムもそれを否定しているわけではない。見直して新しい項目を起こしたり、縮小していたことを拡大したりすることもいいと思う。

2 市長への提言書(案)について

事務局より説明

議会に関することについては、この市民会議は市長が招集している委員会なので、提言書案には表現していない。しかし、別紙の市民会議での主な意見には、記載している。

また、前回の会議で提言内容として危機を克服する改革から、より素敵なまちを作っていくというようなビジョンに向けての提言として、安全、安心、快適をコンセプトに、名張の価値を上げるため、「教育、文化、観光への重点投資」についての意見があったが、この市民会議は、あくまで効率的な行政の実施のた

めの行政改革の推進に関わる事項を調査、審議いただくこととなっているので、具体的な政策選択に関することは提言書案の中には、入れていない。しかし、議会に関することと同様、別紙の市民会議での主な意見には記載している。主な意見は、提言書と併せて取組の参考事項として市長に提出することとしているので、ご理解いただきたい。

(提言書案の朗読)

会長

各委員より意見をお願いしたい。

委員

最初は、この市民会議がそんなにウェイトが重いような会議ではないという認識だったが、提言になるとかなりウェイトが重くなると思う。提言に至らないような会議もあるので、このような提言をできることは嬉しい。

委員

ずっとやってきたことがこういう纏めになると最初の頃は思っていなかったが、私達がやったことが提言ということで残ったり、また後から、あのとき話したようになったね、といったことになっていくのがとても楽しみだと思う。

行政改革の会議だが、市民の活動として、こんなことがあったらいいと思うことや市民としてはこんな市になったらいいと思う、という意見をいうことが多かったが、こういう形で残るとこれから名張で活動するのは楽しみだと思う。これを私は言った手前、ちょっと観察して自分も関わって、こういうふうにしていきたいなと思ったのでそういう人が増えるように、この提言をもっと広める、こんな意見が出ましたというだけでなく、今度こういうふうに行っていこうとしてます、ということがもっと市民に伝わるような、そういうことに提言として使って頂けたら嬉しいと思う。

委員

この1番の「安全・安心・快適を基本理念とする」というのは、テニス協会から私が設備管理でいろいろ市の方をお願いしてることと全く同じビジョンである。今は、原子力問題など、すごく市民が不安になっているが、三重県は原子力発電所からは遠いので一安心であり、名張は安全に関しては将来性がある土地柄だと思う。

快適という部分では、例えば公園でブランコの下に水溜りができることや、危険だという事で遊具を一斉に撤去したり、そんな事をされたが、本当はこの提言書にあるようなことを職員の方がビルトインされていたら、設備の手入れやちょっとした修理はできるはずである。

この提言書にあることが将来に渡って実行されたら本当に素晴らしい市政ができるのではないかと期待している。

委員

市政一新プログラムが細かくて分かりにくいと思っていたが、提言書の1, 2, 3に集約されてくるのかなと思うと、今度はこの3つが曖昧で分かりにくいと感じる。ただ、委員の意見が付いていることによって、これが生かされてくると思う。

会長

各委員よりこの提言は良いというご意見があり、了承いただけたと思う。市政一新市民会議をそんなに重く思っていなかった、というのは大変貴重なご指摘である。私も確か第2期から委員をさせて頂いたが、その当時の市政一新市民会議の雰囲気というのは今のような穏やかな雰囲気ではなくて、団体交渉をしてるみたいな感じで攻撃的な雰囲気だったと思う。とてもこれでは改革の提案は出ないな、批判するだけでは何もならないと、暗澹たる気分になることがあった。それがどんどんと議論の内容、レベルが上がってきたのは事実である。関わってもらってる委員が入れ替わる度に紳士な度合いが高まってきたような気がする。

第一期目辺りでは、市民会議からでてくる提案を文章化することは無理だったと思う。これが二期目の後半ぐらいから、政策として体系化されて、それがこういう推進計画に綺麗に落としこめるようになったと思う。そこには行政側の危機意識と市民側の危機意識がマッチする部分がたくさん出てきたということである。そういう点で市政一新市民会議の存在価値の大きさがだんだん滲み出てきたのはその頃ではないかと思う。その一方で、気楽に話して頂けるという雰囲気に切り替わってることも事実で、それは、たいそうな事ではないという雰囲気が原因でもあるかもしれないが、気楽に話せるのは良いことだと思う。

提言の使い方を工夫してほしいというご意見をいただいたが、「提言出ましたよ」という事で、記者クラブへ渡してこういうことです、で終わらずに、いろんな場所で示していくということをお願いしたい。それが大事だと思う。この提言は行政側が勝手に作文したのではないですよ、この委員会での議論をずっと練り上げていったらこうなったんだというプライドを皆さん方持って頂いて、お会いになる仲間、知り合いにどしどし事実を伝えて頂けたらと思う。

また、公園の設備の手入れについてのご発言があったが、これも大変大事な事である。これから行政側がやるべきことと住民側がやるべきことの仕切り直しをありとあらゆる場所でやらないといけないが、この行革の推進計画に載せるほどのことではない部分がたくさんある。だから例えば今の公園のブランコで下がだんだん掘れてきて水が溜まったら、その時に市役所に来て「なんとかしろ」というのが市民の役割なのか、気が付いた人が公園の砂溜まりのを持ってきてスツと

埋めてあげるとというのが近所の人々の自治の力なのかと、そういうことを地域づくり委員会の中で、個別にルール化していく必要があるのではないかと。だから住民の数が多くて自治力が強いところは、どんどんおやりになったらいいと思うが、いくら言われても高齢者ばかりで住まいも疎らで、役所に行くにも車に乗って30分でもいけないようなところにも同じようにしろというのは酷だろうし、地域によって偏差があると思う。市のルールはこうですから一律にこうして下さいというところも、これはやっぱり地域づくり委員会との対話を通じて個別にルール化される事が大事ではないかと思う。

提言の1番、2番、3番が曖昧に感じるというのは、大事なことで、これは、受けるイメージから言うと、この文章は、提言書の紙だけだが、実は市政一新プログラム - 完結編 - とセットである。だから、合計33ページ分、この33ページ分全部をバラバラにするのではなく、これをやるに当たって、名張の価値の底上げに繋がる事業の推進が大切ですよという事である。それからまた名張の経済の活性化に繋がる手法を採用してくださいよとか削るばかりではダメですよとか、それから市民と行政の協働によるまちづくりも基盤整備の推進に繋がる事業が優先順位ですよ。1番と3番が優先順位を示してる。2番が、ただコストカットするだけでなく、金の使い方をもっと工夫して地域経済に繋がっていくようなお金の使い方をしてねということ、リアルに厳しい事になる。例えば2番の「経済の活性化に繋がる手法を優先」するよというというのは、外部委託に出す、あるいは指定管理者に委ねると言った場合に本社が大阪ですよとか、東京ですよとか大手の事業体に任せてもお金は全部本社に吸い上げられてしまう。名張市民の雇用が増えない。そんなところに安いからと言って任せていいのか、というようなことも考えないといけない。

それから病院経営をするにしても来てくれるお医者さんに払っている給料について、そのお医者さんはどこに住んでるのかと言ったら、京都に住んでます、でいいのだろうかということもチェックをかけたときましようということである。地元で還流するような経済に繋がるような改革にしませんか、という意味になると思う。

余談になるが、民間サイド、市民サイドがやるべき仕事なのか、行政がやるべき仕事なのかということに関して、この間ある町で、自分とこの家の前のゴミを役所側が来て掃除すべきだとおっしゃる方がおられた。「スイスでは自治体政府がやって、自分とこの家の前の道路を片付けてくれる。それが当然やる」とおっしゃるということだった。おかしい話だなと思った。これについては、「スイスでは法律によって観光都市としており、いかなる町でもどんな農家でも3年に1回は自費で壁を真っ白に塗り替えるという義務が課せられてるというのはご存知ですか」と、そう返すといいとアドバイスした。

例えば名張で自分の町の、前の道路を名張市役所が来て掃除しろという市民があるとすると、その代わりに名張市に相応しくないボロボロな家とか汚い雨だれの跡が付いてるような白壁を全部自費で白壁に塗り替えて下さいということ

になる。だから国によっても地域によっても官と民との役割分担の部分は違うわけで、同じ名張でも山間部と中心部とが違ってても構わないと思う。だから、外国では、外国では、とおっしゃる方がおるもので困る。そういうことも皆さん市民同士でのご議論をいただけたら思う。これからはもっと厳しく本当はどうなのか、確認してものを言ったほうがいいと思う。

私もドイツのフライブルクという町に住んでいたが、私の友人の家の桜の木が枯れた。その大木を引っっこ抜くに当たって、助けにいったら近所の人に来てじーっと桜の木を見ていた。何でただ見ているかという、今から役所が来て引っっこ抜いてくれるとのこと。役所が自分の庭の木を引っっこ抜いてくれる、それは市民の権利なのか、役所にさせるんだ、ということが、ほおーっと思った。ドイツでは個人の家の庭の木でも役所が抜いてくれる。ありがたい役所だと思ったが、次に木を植えたいと思っても植えられない。なぜなら、このスクエア、住宅街部の近隣の人達の討論の上で同意を受けて樹種を決める。同じ桜の木を植えていいのかどうかも含めて近隣の同意がいるとのこと。そうでなければ処罰されるそうである。

個人の邸宅の桜の木でも役所が抜いてくれるというサービスをしてくれる。しかし個人の邸宅の木でも勝手に植えられない。これがドイツにおけるパブリックとプライベートの関係である。だから国によって違うということを知っていただけと思う。ローカルルール、あるいはナショナルルール、名張ルールとか、違うのは当たり前だと思う。一律にいけないという事を皆さん、ご近所で議論していただきたい。

3 その他

次回の会議について

市長の予定との関係もあり、7月20日の午前とする。

事務局

内容については、市長への提言であるが、提言の前に3月にご審議を頂いた協働のまちづくりあるいは地域予算制度について、7月くらいに成案とする予定なので、合わせて報告という形でこの20日にさせて頂くということでお願いしたい。

以上